

## 令和6年度市政経営に係る市長方針

令和5年10月  
滝沢市長 武田 哲

昨今の地方自治体を巡る情勢の変化は目まぐるしく、人口減少や少子高齢化の進行、デジタル社会の進展、暮らしの価値観の変容など、対応すべき社会的課題が多様化・複雑化しています。

また、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻、記録的な物価高・円安などにより、市民生活を取り巻く環境は、第1次滝沢市総合計画策定時から大きく変動しています。

一方、第1次滝沢市総合計画後期基本計画の展開において、大きな影響を受けた新型コロナウイルス感染症に関しては、法律上の位置付けの変更に伴い、ウィズコロナの考え方の浸透を受け、これまで中止や自粛がされてきた各種イベントなどの再開に合わせて、賑わいや人の流動が、発現前に戻りつつあります。また、市の財政状況も、財政構造改革等の取組の成果により一時期の大変厳しい環境下から、一定程度の投資が可能な状況へと局面が変わってきており、これまで手立てができなかった課題への対応が可能な環境が整いつつあります。

このような中であって、現在、令和6年度から令和13年度までを計画期間とする「第2次滝沢市総合計画」を策定しています。同計画では、「一方的ではなく、お互いに共感し合いながら、寄り添い、共に生きてゆく」ことを「やさしさ」として、社会的包摂性が高い地域社会「やさしさに包まれた滝沢」の実現に向けた取組を行政と市民が一体となって推進することとしています。

市を取り巻く環境の変化に対応しながら、第1次滝沢市総合計画で進めてきた市民主体による地域づくりを、第2次滝沢市総合計画に基づく展開によって一層進展させるため、市政展開においては、基本計画に掲げた取組の推進はもとより、市民に一番身近な基礎自治体として市民に寄り添いながら、「新たな発想の創出」「挑戦（チャレンジ）」「真摯に学び、実践する」などの姿勢のもと、決断と実行による市政を推進します。

行政主体となる領域において、第2次滝沢市総合計画では、市民主体の地域づくり活動に対する支援の推進を方針として明確に掲げています。また、市域全体計画に内包する部門別計画では、市民の健康づくりや妊娠期から子育て期までの支援、障がい者への支援、生活困窮者への支援、高齢者への支援並びに国民年金及び国民健康保険制度の運営など幅広い分野を担ってきた従来の健康福祉部門について、よりきめ細かな行政サービスを推進するために健康こども部門と福祉部門の2つの部門に分割します。特にも、健康こども部門では、こども・子育てに寛容な社会の実現に向けた取組を推進するために、全ての妊産婦・子育て世帯・こどもへの一体的な相談支援が実施できるよう機能強化を図ります。

市制10周年を経て、第2次滝沢市総合計画のスタートとなる令和6年度を、本市が次のステージに向けた新たな飛躍の年度とするため、次の3点を方針として定め、市政経営に取り組んでまいります。

### 1 第2次滝沢市総合計画が目指す状態の実現に向けた事務事業の推進

第2次滝沢市総合計画基本構想・基本計画が掲げる基本的な方向性を理解した上で、自らが担当する施策又は個々の事務事業の展開を図ること。

また、市行政が主体となる計画である市域全体計画が果たすべき役割として「市民主体の地域づくり活動への支援と市民生活の基盤の堅持」を掲げていることを鑑み、前例踏襲のみではなく、業務執行の様々な場面において「市民主体の地域づくり活動に対する支援」に向けた視点からの検討を行うこと。

## 2 5つの重要な視点に関連する事務事業の重点的な推進

未来を担う若い世代から高齢者まで、また本市の特徴である大学の立地などの様々な要素を踏まえ、「やさしさに包まれた滝沢」の実現に向けて重要となる次に掲げる5つの視点を第2次滝沢市総合計画前期基本計画市域全体計画で設定し、特に関連する事業を重点事業として設定し、重点的に取り組みながら、政策及び事業の展開を図ること。

### (1) つながる滝沢

家族や周囲の仲間、地域で共に活動する人のほか、多様なかかわりあいの中で信頼関係を築きながら、住民協働による住民自治の深化を目指して、地域づくり活動に対する支援についての新たな手法や仕組みを検討し、人とのかかわりの構築を進めます。

また、かかわりの構築を通じて、お互いが共感し合い、関係性をより深めることができる取り組みに資源を配分し、本市の考える「やさしさ」を実感できる環境づくりを進めます。

### (2) こどもまんなか滝沢

急速に変化する社会においても、次代を担う子どもたちが笑顔で健やかに暮らすことができるように、こどもを安心して産み育てられる子育て環境の充実に取り組むとともに、子育てをみんなで助け合いながら、家庭や地域が一体となってこどもの成長を後押ししていくこどもまんなかの地域社会の創出を進めます。

### (3) いきいき滝沢

個人の人生観や価値観が多様化する中、こどもから高齢者まで、障がいのある人もない人もそれぞれが役割や生きがいを持ち、誰もが自分らしく健康で安心して暮らせるよう、包括的な相談体制の仕組みづくりと支え合える地域の醸成を進めます。

### (4) まなぶ滝沢

岩手県立大学や、盛岡大学が立地している本市の特徴を活かし、高等教育機関の専門的な知見を生かした学びの機会創出のほか、社会に出たあともそれぞれが必要なタイミングで学びなおしに取り組むリカレント教育の振興など、市民の皆さんの学びにつながる環境づくりを進めます。

### (5) はたらく滝沢

本市の特徴でもある若い世代の存在に加え、大学が立地している本市の特徴を生かして、市内に働く場を創出・集積するための取組を進め、若者を中心とした市民の皆さんが自分らしく働くことができる環境づくりを進めます。

## 3 全事務事業に係る展開手法

「やさしさに包まれた滝沢」の実現のためには、「かかわり」や「つながり」の強化が欠かすことができないことから、市長である私をはじめ各職員が現場に積極的に出向き、市民の皆さんと「かしこまらずに対話」し、市政への関心の向上を図るとともに、「魅力ある情報の発信」により、市への愛着を醸成しながら、人と人とのかかわりの機会づくりへ繋げていきます。

また、岩手県立大学と盛岡大学が所在しているほか、県内自治体の中でも若い世代が多いことを強みと捉え、若い世代が活躍できる環境づくりに焦点を当てた「若者の活躍推進」を進めていきます。

第2次滝沢市総合計画前期基本計画を推進するにあたり、全ての事務事業について、「魅力ある情報の発信」と「若者の活躍推進」の2つを積極的に取り入れることを意識しながら事務事業を展開することとします。